

【2020年度 make.f ARCHIVES】プロジェクト編

こちらでは本年度のmake.fプロジェクトや活動継続中のプロジェクトメンバーについて福井新聞で記事化されたものを紹介します。

2019XSCHOOLから生まれた「喜贈文庫」と「笏谷石バンク」「ノカテ」の活動報告

[2019年当時のXSCHOOL発表会の様子はコチラ](#)

▼2020.08.26

「喜贈文庫」チームは本の収集から活動をスタート。報道をきっかけに多くの本が市民から集まり始めました。

PROJECT



XSESSIONS

2021 PROJECT
ARCHIVE

2020 PROJECT
ARCHIVE

2019 PROJECT
ARCHIVE

2018 PROJECT
ARCHIVE

2017 PROJECT
ARCHIVES

2016 PROJECT
ARCHIVES

CONTACT



古書を集めて私設図書館をつくる計画を進める県内外のプロジェクトメンバー。6月、福井市乾徳2丁目の増田喜

「大事な本、必要な誰かに」

古書集め私設図書館

県内外のデザイナーら20〜40代の6人が、福井市民から古書を集めて市内に私設図書館をつくる計画を進めている。若者が市内企業と事業を創出する市の実践講座「Xスクール」受講がきっかけ。古紙回収業の増田喜（乾徳2丁目）に設置した回収箱で本を集め、今秋にも開館する。「大事にしてきたが手放さざるを得なくなった本を次の誰かにバトしたい」としている。（小林真也）

Xスクールは、都市部から若い人材を呼び込み、持続的に人の流れを生み出す市の「未来につなぐ、ふくい魅える化プロジェクト」の一環。メンバーは、講座でバトナー企業を増田喜を見学し、古紙として回収された本の山

県内外6人 10月にも

を目的の当りして驚いたという「誰か手放した本は、別の誰かにとっては価値があるのでは」と考え、「みんなで図書館をつくらうプロジェクト（仮）」として取り組みを進めることにした。増田喜本社の雑誌・新聞回収場所の隣に6月下旬、本の回収箱を置き、会員制交流サイトのフェイスブックや写真共有アプリのインスタグラムで取り組みを発信した。子ども向けの絵本やシリーズものの図鑑、教材などが集まっているという。現在は図書館を

業者に回収箱 絵本や図録集まる

設ける場所や運営方法について検討を重ねており、10月にもプレオープンしたい考えだ。メンバーの一人で福井市のデザイナー田中宗子さん（41）は「大事にしてきたが物理的に手放さなければならなくなった本や、思い入れがあつて他の人にも読んでほしい本を、他の誰かが手に取れるようにしたい」と話している。本の回収箱は日曜のみ貸出できない。



▼2020.10.08

ついに完成した手作りの図書館！ その後も5,000冊近い本が集まっているそうです。

古書との出会い楽しんで

福井市の美術館「Xスクール」の常駐生チームが、市民から集めた古書を貸し出す図書館を同市乾徳2丁目「開館」と、講座や古紙回収事業を見学して「書庫の山を越えて」里かき放し本は、別の誰かには価値がある」と考えたのがきっかけ。チームは貸し出す古書を地蔵井田と綿ん町、貸出期間をカフエらにだけりして「本主人の出会いの場を創りたい」と思っています。

（小林真樹）

Xスクール受講生が乾徳2に図書館

チームは、県内外の若者や市内企業が集まる「Xスクール」で、2019年秋に定例とデザインやクリエイティブディレクター、コピーライターら2019年度の6人、受講生をきっかけに「みんなで図書館を作るプロジェクト」を立ち上げた。福井市のパトナー企業団体の協力を得て昨年6月下旬、同図書館を同市乾徳2丁目に設置した。開館式も行っている。

図書館は、同館が古紙回収に使っていた古紙を寄付を受け、月下町、乾徳2丁目の同社エコーセンターの一角に開設した。集まった古紙や、メンバーが集めた約600冊、市では前例なかった貸し出しの「Xスクール」が、市民から収集

「図書館」の館内。文庫本や児童書を中心に約550冊を無料貸し出ししている。

貸し出す古書は、カフエらにだけりして「本主人の出会いの場を創りたい」と思っています。

（小林真樹）

▼2020.09.04 メンバーが所属する建築事務所の新事業としてスタートした笏谷石の循環サービスとグッズ販売。



笏谷石 守り未来へ

坂井の会社が「バンク」

建物廃材に新たな価値
売り手と買い手 橋渡し

オンラインストアで販売している笏谷石で作った卓立

バンクを始めたのは、坂井市で建築設計などの会社「エチラス」を経営する伊藤瑞貴さん(47)。昨年、改築を手掛けた建物の基礎に使われていた笏谷石を別の建物の外壁に再利用した際、「地域の素材を捨てるのはもったいない」と感じることがきっかけだった。伊藤さんの着想を受け、昨年度のXスクールを受講した社員、米澤美香さん(32)が自衛隊出身のプロダクトデザイナーら受講生チームの協力を得て、構想を具体化。売り手と買い手の橋渡しや、笏谷石を使った外機などのデザインの提案を伊藤さんの会社で行い、笏谷石の吸水性を生かした雑貨類を作りオンラインで販売する部門を米澤さんからXスクール受講生で運営することになった。

Xスクールは、都市部から若い人材を呼び込み、持続的に人の流れを生み出す市の「未来につなぐ、ふくい魅える化プロジェクト」の一環。今年8月にスタートしたバンクには既に複数の売り手が登録している。坂井市の三國神社近くの自宅を改築している須谷昭博さん(41)は、解体で15坪分の笏谷石が出たという。玄關などに再利用する予定だが使い切れず「探求しておらず貴重なので、誰かに使ってもらえれば」と期待する。足羽山の採掘跡を見学して「歴史の重みを感じた」と米澤さん。伊藤さんは「設計やデザインの力で新たな価値を付け、笏谷石の文化を次世代につなぐたい」と話している。

登録はエチラス090(2836)5676から笏谷石バンクのホームページ。オンラインストアでは卓立てやコースターなどを販売している。

▼2020.10.31、2021.02.19

文化的景観を生かした生業づくりや越前水仙のブランディングに挑戦している「ノカテ」。地域イベントにも積極的に参加し地元住人への理解と共感を深めています。



国の重要文化的景観に選定される越前海岸の水仙畑の歴史などを紹介した催し＝30日、福井市越廼公民館

国の重文景観に選定

水仙畑の歴史課題学ぶ

福井「ミーティング」に20人

越前海岸の水仙畑が県内で初めて国の重要文化的景観に選定されることを記念した催し「景観つくりミーティング」越前水仙の風景をつなぐ」が30日、福井市の越廼公民館で開かれた。市の学芸員や越前海岸で活動する団体が、選定に向けて行っ

た調査内容などを発表した。越前海岸の水仙畑は、国の文化審議会が昨年11月、福井市の「下岬」、越前町の「上岬」、南越前町の「糠」の3件を重要文化的景観に選定するよう答申した。催しには水仙農家ら約20人が参加した。福井市文化

財保護課の藤川明宏学芸員は「下岬」エリアについて、古くから山腹の集落で稲作や果樹などの栽培、沿岸部ではウニなどの浅海漁業が盛んだったと紹介。「水仙は農業に適さない斜面での栽培が可能で、農閑期の収入源になった。減反政策の影響も受けるなどして、田畑が水仙畑へと転換した」と話した。

越前海岸で、なりわいづくりに取り組む団体「ノカテ」は、シカやイノシシによる獣害など越前水仙を巡る課題を説明した。

（永善菜々帆）

出荷基準外の水仙に“命”

越前海岸なりわいづくり団体「ノカテ」



水仙の販路拡大を目指して、イメージ写真を撮影するノカテの高橋さん(右)ら＝1月20日、越前市赤坂町

花束、テーブル飾り…活用模索

越前海岸でのなりわいづくりに取り組む団体「ノカテ」が、出荷基準に満たない水仙の販路拡大に取り組む、来シーズンを見据えて着々と準備を進めている。

代表の高橋要さん(32)は「水仙などを通じ、越前海岸に関わってくれる人を増やしていきたい」と目標を掲げている。(永善菜々帆)

販路拡大へ準備着々

「ノカテ」は福井市殿下地区の元地域おこし協力隊の高橋さんをはじめ、県内外の建築士やグラフィックデザイナーら5人でつくる。5人は県内外の若者と福井のパートナー企業が新事業創出を目指す福井市の実践講座「Xスクール」で知り合った。越前海岸沿いの地域に魅了され、昨年2月に立ち上げた。高橋さんは地域おこし協力隊時代にお年寄りを紹介する冊子「ノカテ」を作った。コンセプトは「いつか、どこかで、誰かの糧」。活動すること、いつの間にか地域の人の力になって

いるようにという思いで、団体名をノカテとした。越前海岸の水仙畑は県内で初めて国の重要な文化的景観に登録されるが、水仙農家としか話さず、シカとイノシシによる被害や担い手不足などの課題があると知った。そこで、「ノカテ」として何かできることはないかと考えた。水仙は正月の飾り花として需要があるが、出荷基準が厳しいという。市場への出荷基準に満たない水仙を、和のイメージから脱して売り出そうと話行継続している。

1月下旬には、結婚式で花のセッティングなどを行うフローリストを招いて、花と茎だけの水仙を使ってテーブルをコーディネートしたり、花束を作ったりして撮影を行った。高橋さんは「カジュアルでおしゃれな面があることを知ってもらい、水仙のあるシーンが増えれば」と話す。来シーズンからの販売を目指し、ECサイトを立ち上げる予定。また越前海岸のなりわいづくりに興味を持った地域内外の人が集える滞在拠点を作ろうと、福井市唐倉町

の空き家を改修している。高橋さんは「外の人たちが興味を持ち、来てくれるような活動をしていきたい」と話している。

CONTACT

XSEMI & XSCHOOL、XSTAND

▼2020.10.31、2020.11.08

make.fでは初めてとなるオンライン配信となったXSEMI。オンラインホワイトボードでメモを共有したり、翌日までに画像を宇投稿する宿題を楽しんだり、オンラインならではの体験も取り入れながら進行了しました。



7、8日
「Xゼミ」開講

デザイン
の力
を考えよう

「ふくい 魅える化プロジェクト」

7、8日は、7、8日の2日間、午前10時から午後4時までの間、福井市中央3丁目の複合施設「クラフトブリッジ」にて開講される。

2日には
プレイベント

「ふくい 魅える化プロジェクト」のプレイベントとして、7、8日の2日間、午前10時から午後4時までの間、福井市中央3丁目の複合施設「クラフトブリッジ」にて開講される。

「ふくい 魅える化プロジェクト」のプレイベントとして、7、8日の2日間、午前10時から午後4時までの間、福井市中央3丁目の複合施設「クラフトブリッジ」にて開講される。



新価値生む力学「Xゼミ」

気付き、理解の思考探る

福井市の「未来につなぐふくい 魅える化プロジェクト」の一環で、地域に新たな価値を生み出す力について学ぶ講座「Xゼミ」が7日、2日間の日程でオンラインで始まった。東京で活躍する文化人類学者や表現研究者らの対談などを通じ、物事の本質が捉えらる現代社会で、新たな気付きや理解を深める思考について考えた。（青木伸方）

Xゼミは昨年に続き2回目。定員を超過するテーマに設定で、わけるから、わらない。個とパブリックのあいだを繋ぐ。

福井市中央3丁目の複合施設「クラフトブリッジ」にて開講される。



新たな価値を生み出す力をテーマに、オンラインで講義などが行われた「Xゼミ」は7日、福井市中央3丁目の複合施設「クラフトブリッジ」にて開講された。

簡易スタジオを設置しビデオ会議アプリZoomを使い、初日は文化人類学者の磯野真穂さん、多摩美術大学准教授でグラフィックデザイナーの菅俊一さんをゲストスピーカーとして招き、福井市の「デザインスタジオ・ビゼン」の坂田守史さんから4人かぜみのディレクターを務めた。磯野さんは「わかる、って何なん？」と題して、文化人類学の考え方を披露した。「トランプ大統領が典型だが、人は目の前の出来事を自分の世界観の中で良い悪いと判断しがち。相手の文脈に自分を置き、対話や理解の回路を開いていこう」と呼び掛けた。菅さんは「先入観を、操作することで、新たな気付きを生み出すことができる」と紹介。身の回りにある景色で気になるものや違和感があるものにも着目し、物理的に目線の位置を変えるなどして観察すると、新

CONTACT

▼2020.12.19

プロジェクト活動の拠点となるワークスペースXSTANDが2020年11月、福井駅前に完成！

温か柔らか 開放的空間



温かみのある木製のカバーを取り入れた4階のスペース11日 福井中央ビル

地域に根ざした人材交流や事業創出の拠点を目指し、福井新聞社リノベーションを進める福井中央ビル（福井市中央1丁目）の一部スペースが完成した。県内外の若手企業人材が集まる場や、プログラミングを学ぶ小中学生のための「秘密基地」として活用する。

同ビルは、地上5階、地下1階建ての鉄筋コンクリート造り。地下1階と地上1階には飲食店「vestia（ベスタ）」が入居。11月上旬から3階以上の改修を進めており、4階部分がこのほど完成した。

温かみのある木製家具を取り入れ、壁を白くしたオープンな空間。内装を担った「ヒュッカリ」（福井市南木町）の建築士高野英さん35は「地域を担う人づくりを担う場所になればと期待を込める。開仕切りには、常川レース工業（同市照手3丁目）のレースカーテンを使

人材交流の拠点に

新しい「秘密基地」でプログラミングに没頭する子どもたち

本社が改装・福井中央ビル（福井）一部スペース完成

プログラミングを通して子どもたちと地域社会をつなぐ拠点「ichigoBase（イチゴベース）」が16日、福井市中央1丁目の福井中央ビル4階にオープンした。メンバーの小学4年1中学1年の4人は、新しい「秘密基地」での体験に没頭し、心を躍らせた。

プログラミングを学ぶ小中学生が放課後に立ち寄り、地域の課題解決につながる実践的なテーマで、常駐するスタッフと楽しみながら学びを深めていく取り組み。ナチュラスタイル（同市和泉東1丁目）と福井プログラミング

「秘密基地」始動

初日は3Dプリンター用のソフトで、協賛企業の福井コンピュータイルディングスと近美社（ともに同市のロゴをデザインし、内部をLEDで光らせる仕様で、佐藤英介さん（福井大附属高等学校5年）は早速、赤と緑に点滅するプログラムを書き上げた。集中してきた。これからは楽しさと緊張を見た。今後は、メンバーとして県内外企業や工業系の学生らも参加する予定。参加者の公募は行っていない。（福井）

▼2021.01.31

都市圏の非常事態宣言により、完全オンラインでの実施となったXSCHOOL。16名のメンバーが「医療」をテーマに専門性の高い事柄を自分に近づけ、解きほぐす探索に取り組みました。今期のXSCHOOLではチームアップをメンバーの意思に任せた結果、チーム・個人で11のユニットが誕生。それぞれが最終的に動画プレゼンを発表しました。



Xスクール

より身近な医療とは

県内外の若者らと福井のパートナー企業が新事業創出を目指す福井市の実践講座「Xスクール」5期目の第3回ワークショップが30日、オンラインで始まり、医療に関連したプロジェクトのアイデアを練り合った。
(栗原愛)

5期目第3回ワークショップ

受講生ら具体案議論

都市部から若い人材を呼び込み、持続的に人の流れをつくる市の「未来につなぐ・ふくい魅える化プロジェクト」の一環。
5期目は昨年12月に始まり、3月まで約80日間のプログラム。一般公募の県内外10人と、パートナー企業となった日華化学、オレンシホームケアクリニックス、

松川レビヤンの社員6人の計16人が議論を重ねている。
今期の探索テーマは「わけるから、わからない」「医療とわたしのほぐし方」と設定。これまで5回のワークショップなどで考えを深めてきた受講生は、医療をより身近なものにする具体的なアイデアを発



医療関連のプロジェクトのアイデアをオンラインで話し合ったワークショップ。30日、福井市中央1丁目

表した。
家族から病気になるまで聞き取りした受講生の一人は「話したいことが増えて、家族が再結成された感じ。医療をきっかけにした対話は心の距離が縮まる」と指摘。家族単位で参加できる病気に関するオンラインメデア立ち上げを提案した。
た。医師と患者のコミュニケーションの在り方、「生きづらさ」について考えた受講生もいて、画面上にアドバイスや質問のコメントが連なった。
ワークショップは31日もあり、受講生がグループに分かれ、3月に向け事業内容を決めていく。

▼2021.03.07

メンバーの問いを参加者にも共有し考えを互いに深めることを目的に開催した最終カンファレンス。

「医療福祉身近に」新着想



医療、福祉関連のプロジェクト案がオンラインで披露されたXスクールの本年度発表会。6日、福井市中央1丁目

Xスクール発表会 経験、関心から事業案



県内外の若者らと福井のパートナー企業が新事業創出を目指す福井市の実践講座「Xスクール」の本年度発表会が6日、オンラインで開かれた。受講生4組が医療、福祉をより身近なものにするため、自分たちの経験や関心から生まれたプロジェクト案を披露した。都市部から若い人材を呼び込み、伝統的に人の流れをつくる市の「未来につなぐ、ふくい魅える化プロジェクト」の一環。

5期目となった今期のテーマは「わかるから、わからない」医療とわたしのほぐし方。一般公募の県内外10人と、パートナー企業の日華化学、オレンジホームケアクリニック、松川レビヤンの社員6人の計16人が昨年12月からワークショップなどで考えを深めてきた。発表会で、遊具デザイナーらのチームは、障害者を意識してデザインしてなかった自身の経験から着想し、重度障害児を対象にした遊びを考察することで「みんなの遊び場」をつくるプロジェクトを発表。模型や実装計画の作成に今後取り組むとした。

コンサルティング会社に勤務する受講生は医療機関や行政、市民らが参画するプロジェクトを引き合いに、老いや病气、死に対してさまざまな考えがあることを指摘。個々の認識を改めて考える機会となる、おみくじを模した「おしくじ(御自籤)」を披露した。(野田勉)

※日付は新聞掲載日です。

【記事画像提供：福井新聞社】

いいね！ 0

<<< PREV NEXT >>>

Related article 関連記事



PROJECT

ノカテの「SUISEN Bouquet」が全国に！ チームも法人化へ。

越前海岸の水仙産地で新たな生業づくりに挑戦するプロジェクトチーム、ノカテ。2021年度はオリジナルプロダクトである「SUISEN Bouquet」のEC販売がスタートし…

[MORE >](#)



PROJECT

「トンカンテラス」の開設準備が進行中！

2019年度のXSCHOOLから生まれた、“ものづくり”をテーマにした地域の交流拠点「トンカンテラス」。当時の中心メンバーで自らの実家倉庫を改修するプラン…

[MORE >](#)

改修設計担当が縁 温泉施設に座布団

勝山、札幌の業者贈る

昨年末にリニューアルオープンした勝山市の勝山温泉センター「水芭蕉」に、その改修設計を手掛けた札幌市の事業者がこのほど、



座布団とクッションを寄贈した写真。オーダーメイドで県内企業が製造したこだわりの品で、この事業者は「感謝を込めて贈らせてもらった」としている。

寄贈したのは設計事務所

「三木佐藤アーキ」。同社の依頼で品物を製作した明林繊維（福井市）の村上貴宣社長が届けた。受け取った水芭蕉の樹家慎一支配人は非常にありがたい。ロビーの休憩スペースなどで活用する」と話した。座布団は12枚、クッションは20個あり、村上社長は「生地は製造から縫製までを県内で行った」と説明する。生地はいずれもポリエステル製。水芭蕉備え付けのソファと同じ素材で、恐竜の足跡柄が入っている。色もソファに合わせて、緑と白の2色とした。

三木佐藤アーキの佐藤圭代表は「統一されたデザインの内装にしたいと思っていたので寄贈した。このクッションなどをほしいという声が出て、市販につながると思う」と期待した。（桂知之）

PROJECT

【2020年度 make.f ARCHIVES】人、企業、まち編

これまでにmake.fプロジェクト参加したメンバー・企業たちは多方面で活躍を続けています。このうち福井県内でのアクションについて、2020年度に福井新聞で記事化されたも…

MORE >



PROJECT

みんなの拠点「XSTAND」が完成！

2020年11月末、福井駅前にmake.f活動の拠点となる「XSTAND」がついに完成しました！ 以前よりmake.fの運営を担ってきた福井新聞社が、地域に根ざした創…

MORE >

さらに読み込む



事業名 福井とつながる対流拡大事業 主宰 福井市
協力

国立大学法人 福井大学 産学官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株
式会社福井銀行、株式会社福井新聞社

運営 株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピネン

© 2025 未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト

CONTACT